

2013（第73回）FIP国際薬学・薬剤師会議（アイルランド ダブリン）

第73回FIP国際薬学・薬剤師会議は、2013年9月1日から2013年9月5日までダブリン（アイルランド）で開催されました。本会議の主テーマは「Towards a Future Vision for Complex Patients」であり、このテーマに則った基調講演、シンポジウム等が数多く開催されました。

日本病院薬剤師会は2013年度よりFIPの正式会員となりました。従来、評議員会等にはオブザーバーとして参加してきましたが、今回のFIPからは正式に、選挙等での票を有する会員として出席しました。



〈FIPの今後の活動計画〉

評議員会では、FIPの今後の5年間の活動計画について検討がなされました。アクションプランとなるものとしては7つの柱があります。

（1）薬局と薬学教育に関する国際会議（1年目から3年目）

この会議では、世界中から教員と代表者が集まり、現在の取り組みや薬局・薬学部における教育について情報共有・議論を行います。薬学教育におけるグローバル化を目指して、現在話題となっているテーマについて考え、議論された意見を共有します。この会議で作成された背景文書や活動に対する共通認識、取り組みや問題解決について意識や情報を共有することは、世界規模でのステップアップ、患者の期待の向上、薬の革新に繋がると考えられます。

（2）学術部長と学術リーダーのためのリーダーシップの発展（ネットワーク、オンラインセミナー、学会）（1年目、4年目）

向上心の育成、モチベーションの構築、薬学教育へと変換出来るような情報交換から、世界に通用する薬学教育におけるリーダーシップのネットワークを構築します。

(3) FIP 学術大会における教育セッションと教育フォーラム (1年目)

FIP 学術大会年会では、薬学に関する実務指導者や、科学者や研究者など幅広い参加者が集います。年一回開催される国際薬学部長会議、教育に関する一般演題、さらにアドバンスト教育に関するフォーラムやミーティングなどのプロジェクトが、大会期間中に開催されます。セッションやフォーラムでは、幅広い層の参加者がより良い薬学教育のためのチャレンジや解決策について情報を協議・共有し、革新的な知識を学びます。

(4) 教育開発のためのチームプロジェクトとテクニカルレポート (技術報告書) (2年目)

2006年に設立されたFIP教育協議会のさらなる活動の推進を目的として、今後5年間のアクションプラン、すなわちFIPの最重要課題の一つに薬学教育開発をかけた。現在、世界規模で活動を実施していくことに取り組んでいます。チームはプロジェクトを遂行するために重点領域の専門家と協働し、エビデンスに基づいた資料、テクニカルレポート、教育開発のためのツールの提供に取り組んでいます。このチームは以下のような分野に重点を置いて組織されています。1) 能力、2) 社会的責任、3) 教育の質の保証、4) 労働力、5) 専門家による教育、6) 研究能力、7) リーダーシップ、8) 薬局をサポートする労働力、9) 継続的な専門分野の開発／教育などです。

(5) 教育コンサルテーション (教育プランを設計すること) サービス (2年目、4年目)

薬学教育の発展を望んでいる国や様々な機関に対し、薬学教育の専門家がボランティアで教育コンサルテーションサービスを提供します。(この活動内容には(薬学教育の)カリキュラムの審査、対象となる機関の社会的なアカウントビリティ(説明責任)の評価、その他、評価法そのものやアウトカム基盤型教育(OBE)の発展などが含まれます)

(6) 教育、エビデンス構築、連絡・輸送の中核的拠点 (2年目、4年目)

開発、指導を行うために地域ごとに中核拠点を設け、教育の向上、エビデンスの配信や交付送達を行います。中核拠点は、国境を越えて様々な資源を提供しますが、特に低所得国を念頭に入れています。すでにSABERとPharmapediaの2つのプロジェクトが立ち上がっています。

（7）FIPEdの基盤整備と世界的活動（1年目から4年目）

全てのFIPEdの活動と交流を管理し、FIPEdリーダー間の流動的な交流をサポートします。また、世界的な保健・教育共同体（機関）へFIPEdを告知し、FIPEdへの参加を（他の組織に）促し、関連のある世界的な事業（構想）・行事に代表として参加します。

FIPは様々な形式で進化しています。お祭りのような雰囲気もありますが、年々活発な活動が従来にも増して行われるようになっていきます。今回のFIP会議には世界104カ国から3,000名を超える薬剤師やテクニシャンが参加しました。国別では第1位はナイジェリア(309名)、第2位アメリカ(211名)、第3位中国(203名)で日本は110名で第4位でした。FIP会議は、2014年はバンコク（タイ）、2015年はデュッセルドルフ（ドイツ）、2016年はブエノスアイレス（アルゼンチン）で開催されます。一人でも多くの若手薬剤師が出席されることを望みます。世界の若手薬剤師の国際化はもの凄い早さで進んでいます。特に、中国は若手薬剤師の英語力育成にものすごい力を注いでいます。日本の若手薬剤師もがんばってほしいと思います。



日本からは武田泰生（鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 教授・薬剤部長）先生が、FIP Hospital Pharmacy Sectionの副会長としての要職を務められています。

国際交流委員会 折井孝男（委員長）、武田泰生（副委員長）